

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490400068		
法人名	社会福祉法人 翠明会		
事業所名	グループホーム敬天		
所在地	大分県日田市天瀬町女子畑234		
自己評価作成日	令和5年3月11日	評価結果市町村受理日	令和5年6月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和5年3月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・お一人お一人の思いを理解し、受けとめ、家庭的で穏やかに過ごせるよう努めている。
 ・利用者がそれぞれの得意なことを活かし、発揮できる環境づくりを行なっている。
 ・利用者同士が話し合い、声をかけあって共に日々の生活を楽しめるように支援している。
 ・自然に恵まれたのどかな環境で、季節ごとの花植えや山菜採り、畑での野菜作り、収穫など職員と一緒にこなしている。
 ・地域民生委員等の協力による交流会「よらん会敬天」の開催も、ここ数年は感染症の予防のため実施できていない。再開の希望もあることから、今後は細心の注意を払いつつ交流の機会が持てるよう努力していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・地域民生委員等の協力による独居老人との交流会「よらん会敬天」は、2か月に1回開催し地域の拠り所になっている。コロナ禍で休止しており、収束後は再開することになっている。現在地域から再開を望む声があり、環境を整え再開に向けて検討している。
 ・自然豊かな環境を生かした季節ごとの野菜作りや梅干し作り、山菜採り、収穫などを利用者へ知恵を借りながら一緒に取り組んでいる。また、利用者の思いを理解し、利用者のできること、得意なことが発揮できる家庭的な環境を整えている。
 ・職員同士が仲が良く、また、管理者とも相談しながら、利用者が穏やかに過ごせるように敬う心でケアに当たっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業者名：

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、併施設との全体朝礼、グループホームでの朝礼で理念を確認し、理念に基づいた実践に取り組んでいる。	グループホームで毎朝朝礼で理念を復唱している。業務の中で振り返りながら理念に基づいた実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症の予防のためほぼ参加できていない。	対面での交流は控えているが、地域の方からジャンボ南瓜、保育園児が掘った芋を頂いたお礼にお菓子を送るなど交流は続いている。又地域の方から、「よんらん会敬天」の開催を待ち望まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ここ数年は感染症予防のため実施できていないが、地域の独居の方との交流会など以前のように再開できることを目指して努力していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により一度しか開催できなかったが、その他は書類審議とし、実践した行事や利用者の状況、今後の予定や研修、避難訓練等を報告した。また、日頃より要望や意見等をご家族に確認しつつサービス向上につなげるよう努めた。	運営推進会議は対面1回、あとは書類審議を実施している。事業所の取り組みや利用者の状況等の報告をし、出された意見は職員で検討しサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議(書面審議)の際や、その他の諸手続き時に随時相談や意見等を求めている。	市の担当者とは、運営推進会議等で事業所の取り組みや状況を伝えながら、情報提供や入所に関する疑問等のアドバイスを貰うなど、日頃から連絡を取るよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念や研修、身体拘束廃止委員会等で身体拘束を行わないケアの理解はできている。日中は施錠はせずベッド柵も起き上がりが必要な最小限で行なっている。利用者やご家族とも確認し合っている。	定期的に研修を行い、身体拘束を行わないケアを職員全員が理解しており、常に尊敬の気持ちを持ち、ケアに取り組んでいる。	

事業者名：

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や職員会議、ミーティング等で話し合い、虐待の理解に努め実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、全職員が研修を受けている。必要な時は家族と話し合いながら活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、重要事項説明書に沿って説明し、理解いただいた上で契約締結している。変更がある場合はその都度説明し承諾をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族との日常的なやり取りや連絡時などで得た意見や要望等を、随時ミーティングなどにて話し合い、取り組んでいる。	定期的に家族と連絡を取り、意見や要望を出しやすいようにコミュニケーションを図り、出された意見・要望は職員で検討し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の併設施設との職員会議(書面開催を含む)、グループホームでのミーティング等で話し合い、改善に努めている。	管理者は、会議やミーティングで意見・要望を聞き、出された意見・要望は検討し、運営に反映している。コロナ禍で勤務体制の見直しや希望休の取得がしやすく改善された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の希望をすべて反映することは難しいかもしれないが、できるだけ個人の家庭環境等に配慮し、希望の休暇や職場の労働環境など生きがいをもって就労できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修や職員それぞれの得意分野などを活かせるようにしている。		

事業者名：

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会(年6回開催)に可能な限り参加し、他施設の情報や合同の研修会等を行っている。コロナ禍により唯一開催できた大規模な研修会はたいへん有意義な取り組みとなった。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃より利用者の希望や意見をよく聞き、それを受け止め安心して暮らせる環境作りに努めている。日々の会話の中での情報や様子の変化を見逃さないよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の思いや家族の要望、希望を理解し、支援方法を面会時や電話等で随時話し合うことで不安解消や信頼を得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族に聞き取りを行い、適切と思われるサービスを提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできることや特技、知識を活かし、ともに作業を行っている。一緒に食事をしたりお茶を楽しむことで会話の機会も持て、家庭にいるような環境での生活となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により家族との外出や外泊などは難しかったが、電話の取次ぎや制限付での面会等で支援している。また、近況などはメールや電話、写真等で家族に随時報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	話しを傾聴し、本人の話しや要望等を随時確認しながら可能な限り継続していけるよう努めている。	コロナ禍で、直接的な交流が難しい中、電話や写真、新聞記事など、職員と馴染みの人や場所について会話をしながら、関係性が途切れないよう支援している。	

事業者名：

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声を掛け合ったり、誘い合ったり、一緒に作業をするなど互いに助け合うことで関わりを深めている。また気の合う仲間や同様の趣味、特技を活かし楽しんで交流ができるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調悪化や身体的低下等にて入院、特養入所などスムーズに移行できるよう可能な限り相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情の変化、体調の変化など様子を見ながら本人の思いを家族や職員全員で話し合い、本人の思いに添った生活の実現、不安の解消に努めている。	日々の関わりの中でコミュニケーションを図り、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族や職員全員で本人の思いを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や状況を利用者や家族、担当ケアマネの情報等をもとに、職員間で話し合い共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の身体や精神的状況を把握し、意思を尊重し、その人のペースで生活できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとにケアプランの見直し、評価を実施している。担当職員が毎日の記録等よりカンファレンスシートを作成し、ケース検討会で話し合っている。また、本人や家族の要望等も取り入れている。	本人・家族の話を聞き、担当職員とともに関係職員で検討し、現状に即した介護計画を作成している。毎月のモニタリングと3か月ごとに介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌や毎日の個人記録、バイタルチェック、食事や排泄の状況等変化があればその都度話し合い、伝言表などを活用して情報の共有を図っている。また、必要時はケアプランの変更を行っている。		

事業者名：

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状況の把握や家族との関係性を理解し、寄り添うケアを目指している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で行事への参加はできなかったが、地域の幼稚園や地域住人との交流を通してできる限り地域活動に協力できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前のかかりつけ医能力受診を基本としているが、家族の希望に基づいた実践に取り組んでいる。取り入れ支援している。	入所以前からのかかりつけ医など、本人・家族の希望する主治医となっている。基本受診は家族対応だが、家族が行けない場合は、職員が対応している。専門医など適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のバイタルチェック等により変化や体調不良時は併設施設の看護師に報告、異常時は家族に連絡し、医師やかかりつけ医を速やかに受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の生活状況や医療情報を共有、主治医や相談員と相談し対応できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や機会があるときに緊急時や重度化した際の対応について家族の意向を確認し、関係職員間で話し合って共有している。	入所時に、重度化した場合について事業所の方針を伝え、家族の意向を確認している。状態が変化した場合は、家族の意向を再度確認し、事業所で出来ることを説明しながら方針を共有している。看取りは原則行わず、特養や病院を進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡体制、対応について定期的に話し合い、個別のファイルを作成し、緊急時に備えている。研修やミーティング等で随時緊急時に備えての確認を行っている。		

事業者名：

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍のためへ移設特養との毎月の合同避難訓練はわずかしか実施できなかったが、毎月事業所独自の訓練を行っている。また、非常呼集についても一部訓練を行った。	コロナ禍のため、法人全体の避難訓練はしていないが、事業所独自に毎月避難訓練をしている。備蓄は3日分準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思を尊重し、無理強いしないケアを実践している。排泄や入浴に対しても声掛けに気を付け、利用者の尊厳を守るよう心掛けている。	一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いに気を付けており、入浴や排泄時には、プライバシーを損なわない言葉かけや対応に努めている。また、本人の意思を尊重し、無理強いしないケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の様子や会話の中から思いや希望を聞き、意思を尊重し理解できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースで過ごしており、入浴や食事の時間など決まっていることもあるが自由に過ごしている。一人であることや好きなことをしている時間も尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服や着たい服を選べるよう支援している。2ヶ月に一度訪問美容師が本人の意向を聞いてカットしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍により状況によって制限はあるが、一緒に食材の下ごしらえやカット、配膳を行っている。畑でとれた野菜や季節の山菜など旬の食材を美味しく食べられるよう工夫している。片づけや食器拭きなども自分の役割として行っており、職員も毎回同じメニューを食べている。	畑で採れた野菜で献立を考えたり、味見をしたり、テーブル拭きなど制限がある中工夫している。職員も同じ食事を食べている。梅干し、梅ジュース、金柑煮を作るなど季節ごとの食との関りを大切に支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の管理のもとバランスのとれた食事が提供できている。介助の必要な利用者はさりげなく声掛けを行ない、できる限りの自己摂取を支援している。		

事業者名：

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後口腔ケアを実施している。日頃より口内環境の把握に努め、必要時は歯科(かかりつけ医)を受診している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録で本人の排泄パターンをチェックし、声掛けや誘導を行っている。全員がトイレでの排泄に努めている。	排泄パターンを把握し、声掛けや誘導にて全員がトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で状況を確認し、体操などで体を動かしたり、食事内容や乳酸菌の摂取、水分量などに注意し改善を促している。また、処方による服薬でも改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯はある程度決まっているが、意思を尊重し回数も多少異なる。声掛けや支援方法など職員間で随時話し合い、状態や状況にあった対応、支援を心掛けている。	2日に1回入浴、一人ひとりの好みが入浴剤やシャンプー等を使用し、支援している。入浴を嫌がる時は、無理強いわず次の日に変更している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は一人一人違っており、リビングや居室でテレビを見たり、早寝早起きの利用者もいる。昼夜逆転の方もいるが、自分のペースで自由に過ごしている。室温や寝具も個々に違っており、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報はすぐ確認できる場所にファイルして設置しており、変更があった場合はその都度情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことや趣味が活かせるよう支援している。畑仕事や歌、ゲーム、編み物、作品づくり、書道、生花などを職員とともに行っている。毎朝の体操やレクリエーション、個人の誕生日には手作りケーキでお祝いしている。		

事業者名：

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春の花見では屋外でお弁当を食べたり、周辺散策を随時行っている。コロナ禍により家族との外出や地域との直接的な交流はできなかったが外気に触れる機会をできる限り設けている。	コロナ禍で外出が難しい中、園内の桜や桃などの花見をしたり敷地内の散歩をしている。また、蕨取りや梅の収穫、芋ほり、野菜作りなど、野外活動の支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は職員が管理しているが、判断がある程度可能な利用者については家族や本人とも相談の上、必要時は要望に応えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や、本人が電話を掛けたいと希望する場合は自由に話ができるよう支援している。手紙やはがきのやり取りなども手助けを行いながら積極的に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自由に行動できるよう、動線に障害物がないか常時確認している。共有空間は皆がリラックスできるような環境づくりを心掛けている。季節の花を飾ったり、季節行事にまつわる装飾品などで季節感を味わえるよう努めている。	対面式キッチンで生活感があり、安全に移動できるよう工夫している。、玄関わきの広いスペースにはサンルームのようで、椅子やソファを置き、花や作品が飾られ、四季折々の景色を眺めながら、ゆったりと過ごせる空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファは気の合う利用者同士が近くに座っており、席は決まてはいないがそれぞれが自然と同じ席に座っていることが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時や入居後にも必要なものや使い慣れた家具を設置することがある。家族や本人と相談しながらできるだけ好みの配置となるよう心掛けている。転倒や事故防止のため動線には十分配慮している。	使い慣れたタンスやいす・テレビなどを持参し、動線を考慮したベッドの配置になっている。写真や本人の好みのものを飾り、居心地よく過ごせる部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面や手すり、椅子、テーブルの高さは使いやすいよう設計されているが、個人によってはクッション等で調整している。トイレは車いす対応の広さが確保できており、手すりや安全バー、タッチセンサーでの給水などの工夫がある。		